

第三天使の使命—獣の刻印か神の印か

黙示録 14 章の三重の使命は、地球最後の時代の最も厳粛な警告の使命であり、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えられなければならない永遠の福音である。

第一天使の使命は、特に神の裁きの時に創造主礼拝が安息日遵守に焦点が当てられることを教えている。神の権威を拒み法王至上権を主張したローマ・カトリック教会と第一天使の使命—現代の真理を拒んだプロテスタント諸教会はバビロンとなった。バビロンから出よ、分離せよが、第二天使の使命である。真理によって聖別された民を神は集めておられる。まもなく、生けるものの裁きが始まると、獣、獣の像を拝むかが決定的な事件として起こる。その天下決戦の時のことを第三天使の使命は警告している。この天使の使命が、すなわちバビロンが完全に倒れるのは、日曜休業令が発布されるときである。

第三天使の使命の獣は何かを学んだ。ローマ・カトリック=バチカンである。ローマは世界支配、新世界秩序構築を狙っている。前の章 13 章に明確に見た。獣の像とは、政治と宗教が結合してできたカトリック教会を真似る、米国プロテスタント教会であることも学んだ。そして米国プロテスタント教会が「先の獣」ローマ・カトリック教会の新世界秩序構築を全世界に強要することも学んだ。

今日は、米国プロテスタント教会が全世界に「獣の刻印」を受けるように強制すること、そして獣の刻印とは何か、その法令に服しなければ、どんなことになるかを学んで行こう。

黙示録 14:9-11：「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない」

黙示録 13 章と 14 章を見ると、明らかに全世界が真つ二つに分たれることが示されている。

- ・黙示録 13:8 「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう」

小羊の命の書に名が記される者は、創造主を拝む者たちである。その他の者はみな獣を拝む。獣の像を拝む、獣の刻印を受ける。生ける者の裁きを描写している。

- ・黙示録 13:16-17：「また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもしないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。

獣の刻印とは何か？

神の正反対であるから、神の印とは何か、それと対照して考えてみよう。

- ・黙示録 14:1 「十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。
- ・黙示録 6:15 「地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかくした」

亡びる者たち—同じ表現。額に獣の刻印

救われる者たち—神の名が額に。黙示録 14:1

- ・黙示録 7 章—額に生ける神の印。 対照的な二つのグループ。
 - ・エゼキエル 9 章—嘆き悲しむ者たちにしるし(印)をつけよ。 黙示録 7 章と同じ。救われるしるし=生ける神の印。
 - ・エゼキエル 8 章—滅びる者たち—神の憎むべき偶像礼拝—特に太陽礼拝 8:15-「さらに大いなる憎むべきこと」
 - ・エゼキエル 11 章—憎むべきこと、バアル礼拝者への刑罰。
- しかし、救われる者たちは、神の栄光にあずかる。19-22 節 黙示録 7:2 日の出る方から生ける神の印=黙示録 18:1 天からの栄光によって地は明るくされる。

・エゼキエル 43:2 「その時、見よ、イスラエルの神の栄光が、東の方から来たが、その来る響きは、大水の響きのようで、地はその栄光で輝いた」

神の印とは太陽礼拝＝日曜礼拝とは対照的に安息日礼拝。

・エゼキエル 20:20,12 「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである」

第一天使の使命

- ・黙示録 14:7 「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。
- ・出エジプト 20:10,11 「七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。

十戒の安息日の戒めにのみ神のしるしを見る。権威の印—神の名、主(エホバ、ヤウエー)、肩書き＝創造者、支配領域—天と地と海とその中のすべてのもの。

神の印：

- ① 安息日
- ② 神の権威のしるし
- ③ 主によって聖別されること
- ④ 聖潔の完成、品性の完成、シールされること

手に額にしるし 申命記 6:5-8

イザヤ 8:16 「わたしは、あかしを一つにまとめ、教をわが弟子たちのうちに封じておこう」 「律法を封印する」 欽定訳
へブル 10:16 「わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう」 どこに？額に＝心に＝思いに。

「手にしるし」 働き、職業も安息日を守る仕事。

・エレミヤ 12:5 「もしあなたが、徒歩の人と競争して疲れるなら、どうして騎馬の人と競うことができようか。もし安全な地で、あなたが倒れるなら、ヨルダンの密林では、どうするつもりか」

- ⑤ 主の安息、休みに入ること へブル 4:9-11 「安息の休み」

獣の刻印とは？

・黙示録 13:17 「この刻印は、その獣の名、または、その(名)数字のことである—獣の数字のこと(DR ファウラー)」

獣の刻印、獣の名、獣の数字はみな関係している。

「獣の数字で、獣の名の数字ではない」＝人間をさすものである (13:18)。

獣の刻印＝獣の名(13:17)＝獣の数字＝666＝人間の数字＝不完全数 6 日曜安息日 対 完全数 7 日安息日。

・黙示録 13:1 「神を汚す名」

- ① 憎むべきこと＝太陽礼拝＝日曜礼拝 エゼキエル 8:15,16
- ② 日曜日は獣の(ローマ・カトリック教会の権威のしるし)
- ③ ローマ・カトリックの宗教一致運動、安息日は「主による聖別、分離」
- ④ 罪のまま救われる。律法は守れない。完全は不可能。
- ⑤ 「手と額に刻印を押させ」。

・RH, 1911-4-6 「人間が日曜日に働くことを禁じるだけでなく、安息日には働くように強制する時が来るであろう。人は安息日を放棄するように、そして日曜遵守に署名するように命じられるであろう。彼らの自由を奪い、生活の権利を失うように言われるであろう」。

・その前に「額に」心、思いに欺瞞をもって働くであろう。

・大争闘下 378 「あらしが 迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般向けの側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」

・初代 455 「災害の結果に苦しんで、悪人たちの多くは怒りに燃えた。それは恐ろしい苦悶の光景だった。親は子供たちを激しく非難し、子供たちは親を、兄弟は姉妹を、姉妹は兄弟を非難していた。『あなたがわたしに真理を信じさせまいとしたのだ。そうでなければ、こんな恐ろしい目に会わずにすんだものを』と言って、大声で泣きわめくのが、四方から聞こえた。人々は、激しい憎しみをもって牧師たちに向かい、『あなたは、わたしたちに警告してくれなかった。あなたは、全世界の人が悔い改めて救われる時が来ると言ったではないか。あなたは、平和だ、平和だと叫んで、恐怖心の起きるたびに、それを静めてしまって、こんなことになるとは言わなかったではないか。わたしたちに警告する人があると、あれは狂信者で、わたしたちを滅ぼす悪い人たちだと、あなたは言ったではないか』と言って、彼らを責めた。しかしわたしは、牧師たちも神の怒りをまぬかれないのを見た。彼らの苦しきは、人々の痛みよりも十倍も激しかった」。

・エレミヤ 5 : 31 「預言者は偽って預言し、祭司は自分の手によって治め、わが民はこのようにすることを愛している。しかしあなたがたはその終りにはどうするつもりか」。

エレミヤ 2 : 8

⑥ 黙示録 14 : 9-11 「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない』」。

日曜礼拝と霊魂不滅の教理はほとんどすべての宗教の根底にある。古の時から現代に至るまで。

- ・ エジプトの太陽神ラー
- ・ ギリシャの太陽神アポロ
- ・ フェニキアの太陽神バール
- ・ アンモン人の太陽神モレク
- ・ バビロンの太陽神シャマシ
- ・ ペルシャとインドの太陽神ミトラ
- ・ 日本の天照大神

なぜ、サタンは日曜礼拝にこだわるか？

- ・ 神とイエスの権威を奪いたいのである。
- ・ そのために神の律法に攻撃を加えてきた。
- ・ 律法の中心の安息日に神の名と権威がある。
- ・ 安息日は「主の日」であるから。

・ スタディバイブル(旧 14) 14 「牧師であれ信徒であれ、誰であっても、他のいかなる人の理性をも強要、あるいは支配しようとする者は、サタンの手下となって彼の働きをするのである。そして天においては、カインの刻印を帯びた者とみなされるのである (MS 29, 1911 年)

結論：

最後の時代に全人類は二つのグループに分けられる：

1. カインとアベル

「カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する二種類の人々を代表している」あけぼの上 68.

- ・悪人と義人
- ・迫害するものと迫害されるもの
- ・亡びる者と救われる者
- ・亡びる者と小羊の命の書に名が記される者
- ・獣の刻印が押される者と神の印を受ける者
- ・サタンの精神に満たされるものと神の品性の完成にあずかる者
- ・利己主義を完成に表す者と小羊の無我の精神を表す者
- ・神の律法を踏みにじる者と「神の戒めを守る」聖徒
- ・永遠の暗黒に封じ込まれる者と永遠の栄光に輝く者

ダニエル 12 : 3 「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう」

黙示録 18 : 1 「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」

雅歌 6:10 「このしのめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか」

エペソ 5:27 「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

イザヤ 60:1,2 「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上へのぼったから。見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。

大争闘下 418、初代文集 460 地上は最も暗黒の時に聖徒たちの栄光で満たされる。

「天から神のみ声が聞こえて、イエスのこられる日と時とが宣言され、永遠の契約が神の民に伝えられる。どんな雷鳴も及ばぬとどろきをもって、神のみ言葉が地上になりひびく。神のイスラエルは、耳を傾け、目を上方に注いで立っている。彼らの顔は神の栄光に照らされて、シナイ山から帰ってきたときのモーセの顔のように輝いている。悪人たちは、彼らを見つめることができない。神の安息日をきよく守ることによって神をあがめてきた者たちに、祝福が宣言されると、勝利の力強い叫びが起こる」

今のうちに光を蓄えよう！

